



福井県PTA

◆発行所：福井県PTA連合会 会長 木村正俊 広報委員会
 ◆発行所：〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
 ◆ホームページ：http://www.fukui-pta.jp (社) 日本PTA全国協議会 http://www.nippon-pta.or.jp/
 ◆E-mail：mail@www.fukui-pta.jp



CONTENTS

◆会長のひとこと	2
◆おめでとう文部科学大臣賞受賞	2
◆福井県選出国会議員への要望活動報告	3
◆一筆啓上 我が家の三原則	3
◆環境委員会アンケート報告	4
◆知事と語る会	5
◆東海北陸ブロック福井大会(分科会)	6・7
◆東海北陸ブロック福井大会	8
◆県Pゆめ基金「単P活動支援金」の事業終了報告	9
◆東海北陸大会をふりかえって	10
◆福井県PTA連合会掲示板	10
◆編集後記	10

大会を振り返って



福井大会実行委員長
石川 浩

「話そう！笑って抱きしめて」ほやの、みんなでやるつさを大会のテーマに、第66回東海北陸ブロックPTA研究大会の福井大会を東海北陸6県1市より2700名を超える皆様にご参加いただき、越前は福井の地で開催できましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

子どもたちの幸せはすべての親の願いです。今大会を通して、ご参加いただきましたお一人お一人が、子どもたちを笑顔で抱きしめ、向き合って話をし、コミュニケーションを深めることの重要性を感じ取っていただけたと思います。同時に、親、教師、地域の人たちもお互いにもっと近づいて、朗らかに語り合い、子どもたちに勇気と誇りを与えることの大切さを考えていただけたものと思います。

本大会で得られたことによって、東海北陸のそれぞれの地で、笑顔のある家庭で親子が共に成長し、また、学校や地域との繋がりが自然と深まっていくことを、心より願ってやみません。

最後に、本大会開催にあたりご支援いただきました、福井県教育委員会、関係諸団体の皆様、ご支援いただきました講師、助言者、コーディネーター、パネリストの皆様、発表PTAの皆様、ご参加いただきました6県1市のPTA会員の皆様に心から感謝申し上げます。すばらしい仲間と共に、楽しい大会を開催させていただきました。本場にありがとうございました。

福井県PTA連合会掲示板

●平成23年度行事予定

(一部変更あり)

開催月日	行事等
4月上旬	各都市P連役員等の報告メット
2日	広報紙コンクール審査会
24日	PTA活動地区別研修会打合せ・新旧ブロック長引継ぎ会 郡市PTA会長・事務局長会議
5月7日	平成23年度(第11回)広報紙づくり講習会 敦賀会場(午前9時30分)
8日	第2回理事会22年度理事による(午前10時)
28日	第23年度第61回年次総会 福井会場(午前9時30分)
6月4日	第1回理事会新メンバーによる・常任理事会
25日	PTA活動地区別研修会……坂井ブロック
7月2日	PTA活動地区別研修会……丹南ブロック
3日	PTA活動地区別研修会……奥越ブロック
9日	PTA活動地区別研修会……福井・永平寺ブロック
16日	PTA活動地区別研修会……嶺南ブロック
8月6日	子育て研修会
26日	全国PTA研究大会 ひろしま大会 1日目 分科会
27日	第67回東海北陸ブロックPTA研究大会愛知大会 2日目 全体会
10月28日	福井県PTA研究大会 1日目 分科会 2日目 全体会
12月29日	福井県PTA研究大会 2日目 全体会
平成24年1月	県PTAゆめ基金・小規模校支援募集月間
2月	県PTAゆめ基金協力月間(書き損じハガキ等の回収)
3月	PTA諸活動関係者の表彰推薦時期 広報紙コンクール作品募集 年間のPTA活動のまとめ冊子・広報紙等の発行、配布

編集後記

この冬は県内各地で厳しい寒さや記録的大雪による被害が相次いで報告されました。

この大雪は通学時の子どもたちの足に影響を与え、おかげで県内各地の単位PTAにおいては通学路の除雪等で、子どもたちのために平年より幾分か多く汗を流す事ができたことと思います。

広報紙102号の編集作業は雪との格闘もひと段落というタイミングで本格化しました。内容は毎年恒例の事業報告を充実させるのと同時に、東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会という準備段階から携わった人・参加した人の数、かけた予算等全ての面で今年度後半最大規模のイベントを、会員の方々にいかに臨場感を持たせながら伝えることができたかという点に苦心しました。

時間や紙面の制約のなかで、満足の出来とはなりませんでしたが、盛会だった大会を記事にできたことを大変喜ばしく思います。

102号発行にあたり、寄稿いただいた方々、寄稿者への連絡調整をいただいた事務局の方々に深く感謝申し上げます。

広報委員長

橘 英亜機

東海北陸ブロック

PTA研究大会福井大会を終えて



福井県PTA連合会会長 木村 正俊

昨年、十月二三、二四日と第六六回東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会をサンドーム福井をメイン会場とし、開催させていただきました。東海北陸六県一市より、二七〇〇名を超える会員、及び関係者の方々のご参加をいただき、誠にありがとうございました。

本大会は、「話そう！笑って抱きしめてくほやの、みんなでやろっさ」を大会スローガンに掲げ、子どもたちを取り巻く環境を整え、未来を担う子どもたちをより豊かに育むために私たち親が、今、何が出来るかを改めて考え、討議する学びの場を提供させていただけたらとの思いで大会を開催させていただきました。一日目は、六つの分科会を県内各ブロックのそれぞれの会場にて、PTA実践発表とパネルディスカッションを行いました。それぞれの地域に即した各小・中学校PTAの取り組みを福井らしさの中で聞いていただけたらと、会場や内容等を選定し、運営させていただきましたが、如何でしたでしょうか。二日目の全体会では、落語家の三遊亭好楽氏をお迎えし、私たち親が笑顔で子どもたちと会話できたなら、子どもたちを必ず健やかに育成できるとの願いを込め、「笑顔のコミュニケーション」と題し、講演していただきました。現在の社会では、情報端末の発達、マスメディアの普及に伴い、様々な波紋を広げています。子どもたちが、これらの困難な壁に立ち向かい、生き抜いていけるための「生きる力」を身につけ、自活できる様、私たち親が導いていかなければならないと思います。

今回の大会を通して、皆様一人一人が何かを感じ一つでも、今後のPTA活動の一助にいただけたら幸いに思います。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご支援・ご尽力をいただきました大会関係各位、並びに大会実行委員の皆様にご厚く御礼申し上げますとともに、PTA会員の皆様が今後益々活躍されますことをご祈念申し上げますお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

福井県選出国會議員への
要望活動報告

特別委員会委員長 脇田 淳子



議員とは秘書対応でしたので、要望書を渡して参りました。お会い出来ました議員とは、

一、一人ひとりの子どもたちに行き届いた教育を実現するために、小学校低・中学年においても30人学級の拡充

二、多様化から深刻化する子どもたちの心身の健康問題にも対応出来るよう、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、養護教諭の臨時任用、登校支援員等の増員・増配置、教員の資質向上のための予算措置

三、児童虐待の早期対応と虐待によるこころの傷を癒すために、児童福祉司の増員等、支援体制の充実

四、通学路や学校の安全体制の確保、災害時の避難所としての役割を担っている学校の耐震化、また、近年の異常気象による学校教室の空調設備のため、十分な財政措置を行い、引き続き、学校の環境整備促進

の4つの項目について要望し、前向きに話し合いができたのではないかと思います。この要望を通して、今後、福井県の子どもたちがますます健やかに成長するためのより良い環境整備のため、県選出の国会議員の皆様にご尽力していただけることを願っております。



“一筆啓上 我が家の三原則”

たくさんのご応募ありがとうございました。

武生西小学校 5年生 大友 香奈さん

「我が家の三原則」①目を見て話す。②すなおに言うね「ありがとう。」「ごめんなさい。」③一日一回ぎゅっとだきしめる。

(注) おかあさんへ)ぎゅっとだきしめられると、あかちゃんみたいで、はずかしいけど本当は、とってもうれしいよ。

(復) かなへ 五人きょうだい二番目で、ついつい頼りにしちゃうけどまだまだ、ぎゅって抱きしめるヨ。

進明中学校 3年生 綾部雄太さん

「我が家の三原則」①「しまった」と思ったら素直にごめんなさい。②最低1日1回は家族そろって食事しよう。③ゲームやパソコンの使用時間を守ろう。

(注) おかあさんへ)「しまった」と思ったときにたった一言の「ごめんなさい。」って言えばいいのに言えなくて「ごめんなさい。」

(復) 雄太へ 素直に言えない気持ちもわかるよ。昔はお母さんも同じだったから。でも勇気を出して、お母さんは待ってるよ。

福井県PTA連合会の独自の取り組み「我が家の三原則」も7年目を迎え、皆様に定着してきたように思います。今年度は、今までのキーワードの「時間・挨拶・食事」に「会話」を加えたキーワードで募集したところ、3272通の応募をいただき有難うございました。



この事業を通して、親子のコミュニケーション作りのきっかけになっていたければ幸いです。

来年度からもこの事業が継続し、他県に誇れるものになりたいと思っています。最後になりましたが、ご応募いただいた皆様、ありがとうございました。

生活学習委員長 宇都宮 直樹

輝かしい受賞
おめでとうございます

日本PTA全国協議会年次表彰式が、11月16日、ホテルニューオータニにて盛大に開催され、PTAの振興・発展に寄与した団体と個人に対し文部科学大臣賞、日P会長賞が贈られました。県PTA関係の受賞者は、次のとおりです。

☆文部科学大臣表彰

・大野市 和泉小・中学校PTA
・坂井市 兵庫小学校・幼稚園PTA

☆日本PTA会長表彰

〈団体〉
勝山市 成器西小学校PTA
小浜市 国富小学校PTA

〈個人〉

山岸登志高
朝倉富成
高津琴博
新谷正浩



Q4 子どもの虐待防止対策について
福井県は国の児童相談所に通報があると24時間以内で処理（国の基準は48時間）しようとする4つの県のうちのひとつであり（他は群馬、鳥取、長崎）、虐待は家庭の問題が非常に大きく夫婦の円満が大事だが、世の中いろいろなことが起きるし事情があるから世の中みんなが夫婦円満とはいきにくい。何かあったときにはカウンセリングしたりしてバックアップするというのが県の考えである。

Q3 子どもの食に関する安全（特に学校給食）にかける施策について
県では高知県と1、2位を争うくらいコシヒカリへの補助をして応援している。またできるだけ県内の地物を学校給食に取り入れることをすすめていて、今年度は県内全ての学校が10品目以上を取り入れている。
栄養教諭の衛生面でのトレーニングに努めている。
東京など大都市の先進的な事例を学ぶことが大事だと考えている。

Q2 温暖化に対しての学校の安全対策について
冷房については高校受験をする中学3年生の補習対応にお金をつくり使う工夫が先だが、他の施設など涼しいところを使う工夫も必要で、対応は徐々に段階的にやっていくのがいい。



Q1 山間部等の過疎地域における安全対策について
有害鳥獣対策として、電気柵や防獣ネットによる防除、捕獲数や狩猟期間を増やすことで固体管理を強化している。また山にどんぐりの木を植え、間伐をするなどした林業的な対策を進めている。
子どもたちの安全のためには、集団下校、熊よけ鈴、スクールバス、保護者の巡回、給食残飯の適切な処理により、熊等を学校近くに近づかせない様な取り組みを行っている。

＜子供の安全。安心施策に関して＞

広報委員長 橘 英亜機

知事と語る会

本年度の教育懇談会「知事と語る会」を12月10日（金）午後4時より、県庁特別会議室において、西川一誠知事、広部正統県教育長をお迎えして開催され、以下の点について懇談が行われました。

＜子どもたちの教育施策について＞

Q1 本県の子どもたちにつけたい挑戦力について
県議会では、「県民のビジョン」という教育が1つのテーマとなった、これから10年先の福井県のビジョンをつくっている。その中で日本一の学力・体力を維持し、それらを生涯にわたって自らの生活にうまく活用し挑戦していくことが課題であるとしている。具体的には0歳から就学時までの幼稚園・保育園での教育を重視すること。2つ目として、ある程度能力がある子どもたちは数学オリンピック等国際的なコンクールに挑戦してもらうような場をもつ設けること。3つ目として、いろいろな体験をする機会を増やし、サイエンス教育とか白川文字学といった福井型のカリキュラムによって、生き物、宇宙、サイエンス等を学ぶことを掲げている。

Q2 情報化社会に生きるための子どもの教育施策について
子どもたちの身に付けさせたい情報リテラシー、活用能力としては、情報をうまく集め、それを選択してチェックし加工できなければならない。小学校での学習指導例として、キーボードによる入力、インターネットの閲覧、調べたことを文書にする、電子メールの送受信レポートや発表のための文書や図表の作成を行っている。
情報問題として、携帯電話は小中学校において特殊な例を除いて持ち込み禁止とし、高校は原則禁止という状態にしているが、情報機器はいかにうまく使っていくかということが重要であり、県内の子どもたちの学力・体力をうまく生かすため大いに活用すべき余地の多い分野だと思っている。

Q3 「家族時間の伸長」について

みんなで家族時間を伸ばしていく、団欒の時間を伸ばすというのは大事である。県では全国的に最も古い「家庭の日」を、毎月第3日曜日に設け、翌第4日曜日を「放課後活動定休日」とし、子ども達は早く家に帰り、親たちもできるだけ定時で会社を帰るという取り組みを行っている。家族時間を伸ばしたいと思っている。家族時間キャンペーンについてはテレビや新聞でPRしている。また企業を訪問しノー残業デーへの協力を求めている。



見守り隊アンケート結果

環境委員会



取り組みを紹介したい9校（概略）

- 春山小**：4月に顔合わせ会を実施、1月に感謝の集いを行い、プレゼント・感謝の言葉を渡し、1・2年生と会食する
- 日之出小PTA**：感謝の集いにてお礼を述べ、会食する
- 越廼小**：6月と11月に交流昼食会（給食）を実施
- 清水東小**：2月にふれあい事業として、伝承遊び（風・けん玉・こま等）を実施
- 吉崎小PTA**：学校農園収穫感謝祭に引きゲーム等でふれあい、さつま汁等を一緒に食べ、感謝の意を表す
- 蔵生小**：6月に対面式および交流給食会を実施
- 三室小**：11月の感謝式（生活総合学習発表会）にて感謝状を贈呈し、昼食はおにぎり作りを一緒にに行い食べる
- 沓見小**：7月に感謝の集い（七夕集会）を実施。また、9月に体育大会で見守り隊種目を実施
- 東浦小中**：4月の開始式にて顔合わせ、12月の見守りボランティア感謝の集いにて、手紙・カイロの贈呈、合唱・合奏披露、手作りおやつのお会食を実施

※その他、隊員を含め地域の方々を学校行事に招待している学校が多数ありました。

第2分科会

テーマ
家庭教育A 福井県立生活学習館

名古屋市立日比野中学校PTAの発表では、親子で参加できる行事が紹介されました。コンサートや講演会を通して多くの保護者や地域住民が参加し、共通の体験を通じて、ふれあいが深まったことが報告されました。

福井市安居小中学校PTAの発表では、PTA行事のメインであるPTA祭が紹介されました。PTA祭では執行部自らが歌やダンスを披露、地域とPTAのつながり、親子の絆が深められたことが報告されました。来週開催されるPTA祭の生ライブが披露され、会場からは大きな拍手がわきあがりました。

後半のパネルディスカッションでは、二つの発表校の取り組みを参考に、「家庭の教育力を高めるために」をテーマに意見交換が行われました。パネリストの方々は、「色んなことに挑戦し自分が楽しむこと」「子どもたちと話をすること」が必要であると助言をいただきました。



第2分科会

テーマ
家庭教育B 福井県立大学交流センター

石川県小松市立荒屋小学校教育友会からは、「見直そう 環境と生活」親、家族の役割とはというテーマが掲げられました。日常生活からポイントを取り、「水」に焦点を当て、「水まわりエコチェック」に取り組み、その結果水を節約するというエコ活動が習慣化され継続して実施されたことが報告されました。その他、ゲームやインターネットなどのメディアが引き起こす悪循環とその対策について報告されました。次に福井県吉田郡永平寺町永平寺中学校PTAから「禅の里に根ざした教育」とも「半世紀」とのテーマで活動報告がなされました。参禅学習、校門での礼、授業始めの黙想、無言清掃

第4分科会

テーマ
学校支援B あわら温泉清風荘

愛知県刈谷市立小垣江小学校PTAからは、地域の関係団体との密接なつながりを持ち、行事、活動においても地域と関わりをもつ活動が多くあることが紹介されました。主な活動として、「小垣江ふれあい村」「児童見守り活動」「小垣江つ子まつり」などがあり、それぞれ、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの健全育成、安全で住みよい地域づくりに貢献している活動が発表されました。



第66回 東海北陸ブロックPTA研究大会



福井県が生んだ知の巨人、白川静博士が研究開発した白川文字学の書体を用いて、タイトルとしました。ユ、て、「包」(ホウ、つつむ)の順で、今回の東海北陸大会のガン、「話そう! 笑って抱きしめて」を示しています。

第5分科会

テーマ
地域連携A 敦賀市プラザ萬葉

富山県魚津市立西部中学校PTAは、21年にわたって行われている魚津神社祭礼後のボランティア清掃の活動を側面から支えています。生徒へのアンケート結果からは、学年が上がり、参加回数が増えるとともに、自分たちの活動に誇りを持ち、地域社会の一員としての自覚の芽生える様子が伺えました。

福井県三方郡美浜町菅浜小学校PTAでは、1つの集落に1つの学校という特性を生かし、「ふるさと普済」の良さを伝えようと、地域の方々の協力を得ながら様々な体験活動を行っています。あわせて、地域の各種団体とともに「すがまっく」愛する会」を立ち上げ、PTAとの連携を図りながら、毎年工夫を凝らした活動に取り組んでいます。

パネルディスカッションでは、PTAとして地域社会の中で心がけていることや子どもたちとの関わり方について熱心な意見交換がなされました。パネリストの方からは学校、家庭・地域とのよい関係を作ることが大切であると助言をいただきました。



第3分科会

テーマ
学校支援A 福井県立恐竜博物館

岐阜県飛騨市立神岡中学校PTAからは、未来に目標をもてる子どもに育ってほしいとの願いから、親の学びと親子の絆づくりで学校を支える「取り組みが報告されました。保護者と教職員で構成された合唱団や、サイバー犯罪に対する防犯講話を通じ、親が学び、また子どもが自ら作るお弁当の日の取り組みや旧校舎の親子での清掃活動で、親子の絆づくりが行われている事が紹介されました。『子は親の背中を見て育つ』を実践しながら、子どもたちが将来に夢や目標を持てる取り組みが印象的でした。

次に、福井県勝山市立鹿谷小学校PTAからは「学校教育を支えるあけぼの活動」の実践報告がなされました。あけぼの活動とは、あけさつ・けじめ・ホランティア・のびやからの頭文字で、大きな柱になっています。平成元年から20年の間続いているさまざまな取り組みが紹介され、小規模校ならではの学校・家庭・地域が一体となった活動です。中でも、県内にさきがけて結成された登下校中の「見守りパトロール隊」や「安全マップ」の作成は、地域ぐるみで子どもたちの安全を守るという強い意志の表れを感じます。

後半のパネルディスカッションでは、助言者の稲山幹夫様から、子育ては他人まかせにせず親自身が考える事、地域を巻き込みながら学校と連携する必要性など、分かりやすいお話を頂きました。



第6分科会

テーマ
地域連携B 越前市いまだて芸術館



最初に三重県桑名市立長島北部小学校PTAが、地域の方とふれあい交流できる事業を充実させて、郷土を愛する子どもの育成を図っている取組を発表しました。地域の方を講師にお願いし、ふれあい教室を開催する等の地域の大人と子どものふれあいを進めており、地域連携を進める上で参考になる実践発表でした。

福井県越前市南越中学校PTAからは、生徒たちのボランティア活動や部活動による地域との連携、PTA活動の地域連携の取組を通して、学校・家庭・地域を結びつける役割を担う意識が生まれたと報告がありました。

地域連携をテーマにしたパネルディスカッションでは、まず現状について学校現場、地域、教育機関からの視点で報告を受け、地域連携の必要性を再確認できました。PTAの果たす役割との関わり方として、子どもたちと地域を結ぶコーディネーター的な役割が必要であり、継続的な組織作りが大事であると感じました。



県Pゆめ基金「単P活動支援金」の事業終了報告

今年度の福井県PTAゆめ基金の収入は531,208円でした。(内訳:書き損じハガキ20,769枚、テレカ459枚)福井県PTA連合会では、この基金を活用して単位PTAを応援しようと、申請のあったPTAの中から特色ある活動を計画しているPTAを選考して、「単P活動支援金」「小規模校支援金」を贈呈しています。今年度は、併せて17単位PTAに贈呈され有効に活用していただきました。その中から計画を実施した3PTAの報告を掲載します。

「親子で作った森のわくわく図書館」

報告者

越前市花筐校PTA会長

藤井 智正

校舎の耐震化工事を「どんな学校を作りたいか」「どんな子どもを育てたいか」を考える良い機会ととらえ、保護者の力を学校づくりに活かすために以下のような取り組みを行いました。

6月21年 体育館耐震工事見学親子スタンプラリー

8月 図書ボランティアの他校図書室見学、PTA・図書ボランティア・地域学校協議会の話し合い

10月 保護者・子ども対象に図書室についての希望調査実施

22年 9月 図書館の名前募集(親子でアイデアを考える)「森のわくわく図書館」に決定

23年 1月 除幕式・記念行事(読み聞かせ週間)

以上のような活動を通して、学校や教育行政に対しての理解を深め、「地域の学校づくり」を実践してきました。支援金は看板や広報チラシ・PTA記念CDの作成費、除幕式のくす玉や飾り付けの一部に使わせていただきました。大変感謝しています。

「家庭教育の充実に向けて」

報告者

大野市上庄小学校PTA会長

中村 豊

本校では平成24年度東海北陸ブロック研究大会での発表を控え、「家庭教育」領域をベースとして、PTA活動のあり方を模索し、「花いっぱい運動」や「親子読書のすすめ」「NIE・ファミリー・フォーカスでの親子のふれあい」を推進しています。「花いっぱい運動」では、花を育てることで、命を慈しみ大切にすることを育もうと、親子で球根や花苗を植えました。また、本を通して親子のふれあいが深まるようにと、毎月23日を含む1週間を「親子読書の日」に設定し、各家庭における読み聞かせや同じ本を読んだの感想交換をしています。10月7日にはPTA教養委員会で講師を招き、「子ども・物語・大人」をむかしむかしからアリエッティまで」と題した講演会を開催しました。学校が研究指定を受けているNIE(教育に新聞を)の一環として、家庭においても親子で新聞記事について話し合おうと「ファミリー・フォーカス」を進めています。

いただいた支援金は児童玄関に掲げた「花いっぱい・笑顔いっぱい・あいさついっぱい」というパネルの作成費や球根・花苗の購入費として使わせてもらいました。ありがとうございました。

「和紙と果実の森づくり」

報告者

越前市岡本校PTA会長

加藤 信一

本校は今年度、国土緑化推進機構の学校環境緑化モデル事業の補助金を受けて、体育館北側の空き地(約400㎡)に本校の特色である紙漉の原料となる楮や雁皮・三桧・トロアオイ、カブトムシやクワガタが集まるコナラ・クヌギ・ブナなどの落葉樹、アゲハチョウの食草となるサンショウ・キンカン・ミカン・レモン、また、子どもたちが楽しみにできるような柿やサクランボ・イチジク・プラムなどの果樹も植えて、子どもたちが緑に親しみ憩いの空間となる「和紙と果実の森」を造成しました。頂いたゆめ基金はこの森づくりのための雁皮や果樹の苗購入にあてさせてもらいました。今後は子どもたちと一緒に森を育てていきます。ありがとうございます。



福井大会全体会



講演の後閉会式に移り、日P相川会長から木村大会長に感謝状が贈呈され、石川実行委員長からお礼のことばに続き、副会長による閉会宣言で2日間にわたって開催された大会の幕を閉じました。

講演の後閉会式に移り、日P相川会長から木村大会長に感謝状が贈呈され、石川実行委員長からお礼のことばに続き、副会長による閉会宣言で2日間にわたって開催された大会の幕を閉じました。

福井大会2日目、県内各地に分散していた2700名を超える参加者はサンドーム福井イベントホールで一堂に集い、全体会が開催されました。

オープニングのアトラクションでは勝山の左義長囃子が会場を盛り上げて、適度な緊張と興奮のなかで開会式が始まりました。式典では、主催者として今大会の大会長を務める木村福井県PTA連合会会長、日本PTA全国協議会(以下日P)相川会長による主催者挨拶、功労者に対する表彰に続き、西川知事をはじめとする来賓の方々の祝辞がありました。その後休憩と次期開催地である愛知県の紹介をはさんで、テレビ番組「笑点」でもおなじみの三遊亭好楽氏による、「笑顔のコミュニケーション」と題した講演会に入りました。講演では、前日に福井のお寿司屋に寄ったときの話、乙武洋匡さんの話などに続いて、娘さんと奥さんといった家族とのかかわりのなかで自身も体験されたこと、気づかれたことなどを軽妙に面白おかしく終始聞き手をひきつけながら話をされました。

